

社会福祉法人白寿会 令和元年度事業報告書

【法人理念】

ともに暮らし、ともに喜び
ともに支え、ともに生き
ともに高め、ともに歩む

【基本方針】

- 1、ご利用者がその人らしく過ごせるよう心に寄り添い、喜びを分かち合います。
- 1、地域と力を合わせ、住みよいまちづくりに貢献します。
- 1、職員が互いに高め合い、いきいきと働ける職場をつくりまします。

平成から令和に替わる節目の年度において、介護業界や地域を取り巻く環境は、介護人材確保の困難化、利用者確保の競争激化などますます厳しさが増してきた。さらに、1月以降は新型コロナウイルス感染防止対策の必要から、日を迫るように事業活動に様々な影響が生じることとなった。

このような中、白寿会は、第1期5か年計画4年目の実施年度に当たり、「認知症への対応、地域福祉への貢献、職員のワークライフバランス」をキーワードに、令和元年度の当初事業計画に掲げた事業はもとより、必要な事業は年度内に柔軟に追加対応するなどし、法人の将来を見据えつつ、健全な経営体制の充実強化に努めた。

この結果、収支状況は、認知症型デイサービスはつらついぶき開設、居宅の拡充及び特定処遇改善加算等による増収の影響で、特養の稼働率は若干、前年度を下回ったものの、実質的に収入は概ね4千3百万円増加した。

また総支出は、デイサービスはつらついぶき開設による支出の増加はあったものの、特養における正規介護職員の離職による減少を概ね非正規職員でカバーすることとなったことによる人件費支出の減少(概ね1千万円)等で、実質的に4千2百万円の増加であった。

これにより、令和元年度の収支差額は、概ね680万円の黒字となり、前年度に比べ、若干の改善であった。

法人全体

(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額
令和 元年度	830,504	823,696	6,808
平成30年度	829,733 (787,836)	823,655 (781,752)	6,078 (6,084)
平成29年度	765,139	754,040	11,099
平成28年度	748,583	720,078	28,505
平成27年度	665,831	656,834	8,997

特別養護老人ホーム（本館・別館・ほのぼのいぶき・短期）(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
令和 元年度	749,212	733,781	15,431	96.8
平成30年度	781,896 (739,998)	776,243 (734,279)	5,653 (5,719)	97.1
平成29年度	719,193	714,405	4,788	95.6
平成28年度	715,461	685,904	29,557	97.4
平成27年度	634,488	627,697	6,791	98.7

デイサービス（ほかほかいぶき）

(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
令和 元年度	29,070	29,798	△728	90.6
平成30年度	31,504	28,259	3,245	97.4
平成29年度	34,087	23,030	11,057	96.9
平成28年度	21,481	21,466	15	88.0
平成27年度	21,907	19,952	1,955	94.6

認知対応型デイサービス（はつらついぶき）

(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
令和 元年度	29,959	35,718	△5,759	85.3

※ 平成30年度の（ ）内は、本館大規模修繕の国庫補助金にかかる特別増減分を除く金額を、他年度との収支比較のために記載している。

※ 特別養護老人ホームとデイサービスの他に、本部拠点区分、居宅サービス区分、在支サービス区分があるため、特別養護老人ホームとデイサービスの総収入額、総支出額、収支差額のそれぞれを合算した金額は法人全体の金額と一致しない。

I 将来を展望した法人経営の推進

1 法人経営体制の強化

(1) 法人経営

ア 理事会、評議員会の開催

開催年月日	審議内容
第1回 理事会 令和1年5月27日	「平成30年度社会福祉法人白寿会事業報告について」 他4議案、報告3件
第2回 理事会 令和1年6月29日	「社会福祉法人白寿会理事長の互選について」 他2議案
第3回 理事会 令和1年7月10日	「令和元年度社会福祉法人白寿会収入支出補正予算について」
第4回 理事会 令和1年11月11日	「令和元年度社会福祉法人白寿会収入支出補正予算について」 他10議案、報告1件
第5回 理事会 令和2年2月1日	「社会福祉法人白寿会育児・介護休業等に関する規程の一部改正について」 他2議案、報告3件
第6回 理事会 令和2年3月23日	「社会福祉法人白寿会処務規程の一部改正について」 他10議案、報告3件

イ 監事監査

開催年月日	出席監事
令和1年5月14日	溝口 孝 山田 光義

(2) 経営組織体制の強化

① 法人事務局の強化

法人事務局を専任の事務局長の下、総務、人事及びリスク管理の3部に再編成し、体制強化を図った。

② ユニットケア推進体制の確立

特養別館のユニットケア体制を確立するため、10月から全8ユニットに、専任のリーダーを配置した。

(3) 職員体制の強化

① 専任事務局長の招聘

計画的な経営管理・調整の中核となる事務局体制を確立していくため、要となる事務局長職に専任の職員を招聘するとともに、介護の将来を担う正規介護職員を3名雇用した。

② 介護業務の分業化の推進

介護の正規職員確保が極めて困難なか、介護業務の仕分けを進め、介護未経験者、無資格者でも可能な業務を担う「介護アシスタント」職を別館の各フロアに配置し、介護業務の分業化による、正規職員のモチベーションの保持と現場業務の効率化を図った。

(4) 多様な働き方に合わせた勤務体制の柔軟化

① 10時間勤務体制の導入

介護の担い手不足に伴う対応策として変形労働制を活用し、実質年間休日165日が可能となる10時間勤務制を導入することで、働き方の多様化を進めた。

② 断続勤務制度の導入

一日8時間勤務の休憩時間を4時間以上確保する、断続勤務制度を導入し、断続勤務手当を支給することで、職員の働き方の柔軟化を進めた。

ア 職種別職員の状況

(単位：人)

区分 職員 区分	H31. 3.31 現在	H31. 4.1 入職	R1 年度 離職	R1 年度 中途 入職	R1 年度 増減	R1 年度 異動 増減	R2 3.31 現在	R2 年度 異動 増減	R2. 4.1 入職	R2. 4.1 現在
○職員総数	141	7	△25	27	9	0	150	0	8	158
・正職員	83	4	△10	2	△4	△1	78	△2	5	81
介護職員	56	3	△6	1	△2	△2	52	△3	5	54
看護職員	6	0	△1	1	0	0	6	0	0	6
機能訓練指導員	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2
生活相談員	3	0	△1	0	△1	0	2	1	0	3
その他職種	16	1	△2	0	△1	1	16	0	0	16
・その他職員	58	3	△15	25	13	1	72	2	3	77
介護職員	22	1	△4	11	8	1	31	1	0	32
入浴介助	5	1	△1	0	0	0	5	0	1	6
介護アシスタント	0	0	△2	6	4	1	5	0	0	5
看護職員	8	0	△1	1	0	0	8	0	1	9
その他職種	23	1	△7	7	1	△1	23	1	1	25

イ 職員離職率

- ・ 正規職員 10.3% (平成30年度：11.2%)
(平成31年4月1日現在 87名 離職者 9名)
- ・ 法人職員全体 12.2% (平成30年度：11.4%)
(平成31年4月1日現在 148名 離職者 18名)

※ 離職率の算定にあたっては、定年による離職者、1年未満での復帰者は除いている。

(5) 外国人材の雇用

① 技能実習生の採用

介護の技能移転による国際貢献及び介護人材確保のため、フィリピンから2名の技能実習生を令和2年3月に採用し、別館5階に配属した。

② 外国人材確保に向けた折衝

国内介護人材の確保が構造的に困難な情勢下、外国人材の活用が経営継続の重要な手段の一つとされる中、現在の取引先である一般社団法人 国際高度人材開発センターとの追加交渉のほか、留学生や特定介護など他の採用手段も含め、多方面との折衝を進めた。

(6) ICT・ロボット導入の推進

① 介護支援ソフトの活用

介護支援ソフトについて、一昨年度の更新期に合わせ、業務の拡張性がより望める「ほのぼのNEXT」を採用し、パソコン52台に導入した。

さらに、介護現場における記録業務を機動的に行えるよう、新たにタブレット18台を購入し、「ほのぼのNEXT」との連携ソフト「ケアパレット」を導入し、介護関連業務の効率化を進め、生産性の向上を図った。

② 勤務シフト支援・勤怠管理ソフトの導入

県内のシステム開発企業と協働し、介護現場の勤務シフト作成支援及び職員勤怠管理を担うソフト「育護ナビ」を導入し、多様な業務の効率化を進めた。

③ 導入すべき介護ロボットの調査

介護ロボットについては、新規の導入は見合わせ、既存導入ロボットの活用定着を進めるとともに、他の先進導入施設や各種展示会を視察し、新たに導入効果が期待できるロボットの選定を進めた。

(7) ノーリフティング・ケアの推進

- 介護に携わる職員の腰痛を防止（腰痛歴比率80%）し、職場定着に繋げるとともに、ご利用者介護の安全・安心の向上を図ることを目的に、正しい抱え上げ方の浸透とともに、できる限り抱え上げない介護を普及促進することとした。

このため、ノーリフティング・ケア推進のプロジェクトを編成し、ご利用者の状態に合わせた福祉用具を活用した移乗介護を積極的に進めた。

- ・ 7・8月 PTによる正しい抱え上げ方の講習会実施
 - ・ 8・9月 岐阜県介護普及センターによる福祉用具活用講習会実施
 - ・ 10月 ノーリフティング・ケア推進プロジェクト発足
リフト、スライディングボード導入のためのデモの実施
 - ・ 11月 スライディングシート導入（30枚）
 - ・ 1月 ご利用者の移乗介助方法判定調査
- 参考（・4月 スライディングボード（7枚）、リフト（2台）導入予定）

（8）法人フランチャイズの推進

① 岐阜県介護人材育成事業者認定制度グレード1の取得

平成27年度に岐阜県介護人材育成事業者認定制度の認定取得を宣言し、認定要件を整備しつつ、グレード3から順次認定グレードを上げてきた結果、昨年11月に岐阜県から県を代表する介護人材育成事業者と評価され、人材確保や人材育成に関し多様な支援が期待できる、最高位のグレード1の認証を取得できた。

参考・ グレード1認定事業者 12法人（令和元年度時点）

② 垂井町による提案型協働事業採択

垂井町が募集した、行政との連携により事業を進める提案型協働事業に、当法人が独自で実施している地域貢献事業の「脳の健康教室」と「おもちゃ図書館」の2事業を応募し、プレゼンテーション審査を受けた結果、2事業とも採択され、各10万円の補助金を受け、広報等の支援を得て事業を実施した。

③ 台風災害の被災地支援

台風19号により被災した埼玉県川越市の特養の支援のため、全国老協の要請に対応し、法人のDWA T登録職員1名を派遣し、被災特養のご利用者支援にあたらせた。

- ・ 支援期間 10月29日～11月2日

- ・ 被災特養 特別養護老人ホーム 川越キングスガーデン
(埼玉県川越市)
- ・ 派遣先特養 特別養護老人ホーム 真寿園 (埼玉県川越市)

(9) 収入確保及びコスト削減

① 事業所別経営管理体制の推進

各事業所の管理者によるオフィスマネージャー会議を月例で開催し、事業所単位での経営意識の浸透を図った。

② 収入財源の確保

新たな介護報酬加算の確保に努めるとともに、補助金、助成金等、介護報酬以外の収入財源の確保を積極的に図った。

ア 介護報酬加算

加算種類	令和元年度	平成30年度
排泄支援加算	80,000	95,000
褥瘡マネジメント加算	60,000	28,000
生活機能向上連携加算	160,000	108,000
栄養マネジメント加算	7,852,000	7,558,000
経口維持加算	760,000	128,000
経口移行加算	60,000	0
個別機能訓練加算	5,830,000	2,483,000
口腔衛生管理加算	420,000	437,000
送迎加算	120,000	88,000
サービス提供加算(新規)	950,000	-
処遇改善加算	46,550,000	44,262,000
特定処遇改善加算(新規)	7,490,000	-
合計	70,332,000	55,187,000

イ その他の補助金、助成金

補助・助成金名	令和元年度	平成30年度
岐阜県介護人材確保対策事業補助	1,540,000	3,150,000
結核予防補助金・生活習慣病助成金	300,000	100,000
特定求職者雇用開発助成金	820,000	0
トライアル雇用助成金	0	80,000
垂井町提案型協働事業補助金	200,000	0
岐阜県介護ロボット導入促進事業補助金	0	500,000
その他	170,000	280,000
合計	3,030,000	4,110,000

③ コスト削減の努力

電気及びガスの供給契約を入札により行い、次年度の光熱水費の削減につなげた。

なお、昨年12月に岐阜労働局による時間外勤務及び手当支給に関する指導を受け、時間外勤務の事前申請とともに、勤務時間の適正管理を進めるため、年度末に勤怠管理システム（育護Navi）を導入し、時間外勤務の縮減に向けた取り組みを進める基盤を作った。

ア 主な契約事業

契約項目	業者名	選定方法	年間契約金額（税抜）
電気需給	日立造船(株)	入札（3社） ※1社辞退	17,890,177円 （直近12か月想定）
プロパンガス需給	東邦液化ガス(株)	入札（3社）	173円（2.3%減） （令和2年2月想定単価）

浄化槽 維持管理	(株)光商会	随意契約	2,226,000 円 (前年同額)
空調設備等 保守管理	日本空調 サービス(株)	随意契約	2,603,000 円 前年比△198,380 円
エレベーター 保守管理	オリックス・ファ シリティアーズ(株)	随意契約	月額 78,000 円 (前年同額)

(10) 新型コロナウイルスに対するリスク管理の徹底

① 新型コロナウイルス感染防止対策の実施

新型コロナウイルスの感染拡大の脅威に備え、法人ご利用者及び職員への感染を防ぎ、事業の維持継続を図るため、3月に対策本部を設置した。

この中で、職員の順守すべき行動指針を策定し、職員に徹底するとともに、ご利用者及びご家族にも通知し、協力を依頼した。

また、小学校の臨時休校に伴う職員への影響に対し、特別有給休暇を制度化する他、施設内に臨時託児スペースを設け、子連れ出勤を認め、勤務の継続を支援した。

- ・ 特別有給休暇対象職員 3名（3月2日～6日の間）
- ・ 臨時託児所対象職員 4名（3月9日～19日の間）

② 新型コロナウイルス対応衛生用品の確保

感染防止に必要な衛生用品（マスク、消毒液、手袋）の在庫点検を行い、マスクについて通常の使用頻度で1か月半程度の在庫残量が確認されたため、介護処遇関連職員以外の職員に対し、再利用可能マスクの活用等により、在庫期間の延長を図った。

2 将来を捉えた計画的経営の推進

(1) 中長期計画による計画的な経営の実践

① 第1期5か年経営計画の検証と次期計画策定組織の編成

2018年度に改定した第1期5か年経営計画の終期と国の介護保険計画の改訂時期が一致するため、次期介護保険の方向を踏まえるとともに、法人設立40年の節目及び新たな在宅系施設戦略を織り込んだ次期中期計画の策定に向けた体制を組織した。

② 新在宅系施設拡張構想のイメージ化

新施設の整備構想のイメージについて空建築事務所の提案を踏まえ、名南経営に財政、資金見通しを依頼し、結果を令和2年1月の理事会に報告した。

(2) 在宅系経営体制の強化

① 認知症対応型デイサービスの開設

垂井地域で初となる単独型の認知症対応型デイサービス事業所はつらついぶき(地域密着型：定員12名)を昨年5月に開設した。

- ・ 前期平均稼働率(～9月) 71.6%
- ・ 後期平均稼働率(10月～) 96.5%

② 居宅介護支援事業所の拡充

居宅介護支援事業所の職員を1名増員(7月)し、特定事業所Ⅱ(1件当たり4千円の加算)が確保できる4名体制に強化した。

II ご利用者・ご家族支援の充実、強化

1 ご利用者の状況

ア 施設稼働率

単位（％）

区 分	令和元年度	平成30年度
本 館	95.4	96.7
別 館	97.6	98.1
ほのぼのいぶき	97.6	94.0
計	96.8	97.1

イ 介護度区分状況

【本館】

R2.3.31

H31.3.31

	男性	女性	計	比率（％）	男性	女性	計	比率（％）
要介護2	1	2	3	5.1	1	1	2	3.3
要介護3	7	9	16	27.5	5	8	13	21.7
要介護4	5	22	27	46.8	5	18	23	38.3
要介護5	4	8	12	20.6	5	17	22	36.7
計	17	51	58	100.0	13	42	55	100.0
介護度平均	3.8	4.2	4.1		3.9	4.2	4.1	

【別館】

R2.3.31

H31.3.31

	男性	女性	計	比率（％）	男性	女性	計	比率（％）
要介護1	0	1	1	1.2	0	1	1	1.2
要介護2	0	4	4	5.1	0	5	5	6.3
要介護3	7	17	22	28.6	5	17	22	27.5
要介護4	7	20	28	36.5	12	20	32	40.0
要介護5	7	14	22	28.6	6	14	20	25.0
計	21	56	77	100.0	23	57	80	100.0
介護度平均	4.0	3.7	3.8		4.0	3.7	3.8	

	男性	女性	計	比率 (%)	男性	女性	計	比率 (%)
要介護3	2	6	8	42.1	1	6	7	36.8
要介護4	0	3	3	15.8	2	4	6	31.6
要介護5	0	8	8	42.1	1	5	6	31.6
計	2	17	19	100.0	4	15	19	100.0
介護度平均	3.0	4.1	4.0		4.0	3.9	4.0	

ウ 年齢別入所者状況

(単位：人)

		～60 歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100 歳～	計
男	性		1	2	3	7	3	10	15	0	1	42
女	性	1	1	1	6	5	18	28	33	16	3	112
計			2	3	9	12	21	38	48	16	4	154
比 率 %	R元	0.6	1.2	1.9	5.8	7.7	13.7	24.3	31.9	10.4	2.5	100.0
	H30	0	1.3	1.9	6.3	10.8	15.2	26.6	27.2	8.2	2.5	100.0
平 均	R元	男性 84.9 歳 女性 87.5 歳 全体 86.8 歳 最高 104 歳 最低 54 歳										
	H30	男性 84 歳 女性 86.8 歳 全体 86 歳 最高 104 歳 最低 60 歳										

2 専門的な質の高いサービスの提供

(1) 心に寄り添い、地域とのかかわりを深める未来型介護の推進

① ご利用者確保に向けた体制整備

特養の代替施設(有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など)やデイサービスが周辺地域に増えつつあり、相談支援室を1名増員し重要な課題である、新たなご利用者の確保や空室への迅速な対応を進めた。

	R元年度				H30年度			
	本館	別館	ほのぼの	全体	本館	別館	ほのぼの	全体
4月	98.4	96.6	100.0	97.7	91.6	97.7	84.5	93.8
5月	93.3	96.6	99.6	95.7	92.2	99.4	89.4	95.5
6月	97.2	98.5	99.1	98.0	95.6	97.2	93.5	96.2
7月	96.6	98.5	89.4	96.7	99.7	98.7	88.2	97.8
8月	97.1	98.5	94.9	97.6	98.7	98.7	88.6	97.6
9月	99.4	97.7	97.1	98.3	98.3	96.7	98.9	97.6
10月	95.5	98.9	94.7	97.1	100.0	97.4	100.0	98.0
11月	95.5	98.3	98.7	97.3	98.5	99.2	100.0	99.0
12月	94.0	97.5	100.0	96.5	95.0	97.8	92.5	96.3
1月	88.5	95.5	100.0	93.4	93.1	98.6	91.6	95.7
2月	92.0	94.5	95.4	93.7	98.5	99.2	100.0	99.0
3月	94.5	97.3	99.4	96.5	98.7	97.9	100.0	98.4
年間	95.4	97.6	97.6	96.8	96.7	98.1	94.0	97.1

② ご利用者の思いに寄り添う「夢の実現」事業の推進

ご利用者の心に寄り添い、思い、希望、夢の実現に向け、多職種の職員やご家族の協力を得ながら実践した。

ア 夢の実現数

	夢の希望数	夢の実現数
本館	48	29
別館・ほのぼの	81	49
合計	129	78

イ「夢の実現」実践事例

要望	内容
自宅で過ごしたい	経管栄養で車いすを利用し異動されている方がご本人、ご家族から家に帰りたい要望有り、多職種（機能訓練指導員、ケアマネ、介護職員）で連携し、自宅の中まで送り過ごしていただくことができた。

自宅で過ごすために	移動は車いすを使用している方が自宅で過ごすために歩行器を使用した歩行リハビリを頑張られた
最期に家にかえりたい	ターミナルケアの方のご家族から本人の過ごした滋賀県の家に戻っていきたいと要望有り、多職種連携し、介護タクシーを利用して家に帰り、お仏壇の前でいつものお経を唱えられた
神戸に帰りたい	神戸で生まれ育ったことが自慢の方。神戸の写真や地図を見ながら神戸での生活の思い出を引き出すことで想いの実現の一步を踏み出せた
美味しいものを食べてスーパーに買い物に行きたい	買い物や外食を楽しんでいた頃のように美味しいものを食べて買い物がしたいと言われる。いつも行っていたスーパーに行き、ファミリーレストランでコーヒーを飲んで楽しんでいただく
うなぎが食べたい	経管栄養の方が、うなぎを食べたいと訴えられ、経口移行の取り組みを行った
旦那様とおでかけしたい	自宅では身だしなみや家事をきちんと行われていたが、施設では何もせずに生活を送られていた。ユニットのキッチン周りの仕事を手伝っていただくことで、以前のように本を読んだり、ご自分からおしほりたたみなどの仕事を「やりましょうか」と言われるようになった。
暮れにはおせちを作りたい	黒豆、酢の物などのおせち料理を作っていた。作っていただいた。

③ 地域住民との交流機会の提供

地域住民の交流事業として活用されている「認知症カフェ」「おもちゃ図書館」事業開催の機会に、特養やデイサービスご利用者が参加し、地域住民との交流を図った。

	認知症カフェ	おもちゃ図書館	合計
4月	1人	21人	22人
5月	5	30	35

6月	2	23	25
7月	4	21	25
8月	2	0	2
9月	9	0	9
10月	5	24	29
11月	2	24	26
12月	3	0	3
1月	1	0	1
2月	—	16	16
3月	—	13	13
年間合計	34	172	206

④ ユニットケアリーダー研修の受講推進

ユニットケアの考え方を学び、ユニットケア先進施設の実践状況を習得し当施設に生かすため、新任ユニット長を受講させた。

	令和元年度	累積受講者
ユニットケアリーダー研修受講者	3	11

(2) 自立支援、心身機能の維持、向上

① 機能改善・重度化防止の推進

特養において、専門の機能訓練指導員の個別機能計画に基づく介護スタッフへの指導により、リハビリ機能の向上を体系的に進めた。

また、両デイサービスにおいても、看護師を機能訓練指導員として新たに雇用し、機能訓練を体系的に実践した。

ア 特養の機能訓練実績

	R元年度加算額	H30年度加算額
本館	2,017,000	653,520
別館	2,712,000	1,829,520
ほのぼの	499,000	0
合計	5,228,000	2,483,040

② 経口移行・経口維持システムの強化

	経口移行加算			経口維持加算		
	R元年度		H30年度	R元年度		H30年度
	加算額 (円)	対象者数 (人)	加算額 (円)	加算額 (円)	対象者数 (人)	加算額 (円)
本館	0	0	0	304,000	10人	60,000
別館	67,200	1人	0	352,000	15人	60,000
ほのぼのいぶき	0	0	0	104,000	5人	8,000
合計	67,200	1人	0	760,000	30人	128,000

③ 栄養マネジメント及び低栄養リスク改善の実践

	R元年度		H30年度	
	対象者数 (人)	加算額(千 円)	対象者数 (人)	加算額(千 円)
本館	716	2,920	718	2,969
別館	956	3,984	965	4,016
ほのぼのいぶき	30	948	217	913
合計		7,852		7,558

④ 排泄にかかる要介護状態の軽減

	R元年度	H30年度
本館	21,000	40,000
別館	42,000	43,000
ほのぼのいぶき	21,000	12,000
合計	84,000	95,000

⑤ 介護職員による痰吸引実施体制の整備

区分	令和元年度 取得者(名)	累積取得者 (名)
介護職員等によるたん吸引研修 (50時間)	6	44
施設内研修による介護職員等によるたん吸引研修 (14時間講義)		17

⑥ 褥瘡発生を予防と改善

		R元年度		H30年度
	対象者数 (人)	加算額 (円)	対象者数 (人)	加算額 (円)
本館	60	23,200	60	10,500
別館	80	31,100	79	14,300
ほのほのいぶき	19	7,400	20	3,400
合計	159	61,700	150	28,200

⑦ 口腔衛生管理の充実

		R元年度	H30年度	
	対象者数 (人)	口腔衛生管理加算額 (円)	対象者数 (人)	口腔衛生管理加算額 (円)
本館	167	150,300	176	158,400
別館	232	208,800	225	202,500
ほのほのいぶき	72	64,800	84	75,600
合計	471	423,900	485	436,500

(3) 余暇活動の実践

① 季節に応じた法人主催余暇活動の実践

行事名	月日等	延べ利用者 参加人数※	場 所
ピアガーデン	7月24日	47	別館
盆踊り	8月24日	49(250)	本館
ボン・マルシェ	8月24日	3(250)	別館
運動会	9月25日	46	本館
日帰りバスツアー	10月24日	9	アクアトト岐阜
かくし芸大会	11月16日	72	別館
喫茶	10回	406	本館

※ ()書きは、地域住民等の参加者数

② 地域行事への積極的参加

行事名	月 日	参加人数 (人)
垂井祭り	5月2日	2
	5月4日	3

③ 食事提供の充実

イベント名	回数	備考
実演料理	6回/ユニット	焼きそば、寄せ鍋
焼き芋	2回/ユニット	
栄養士手作りおやつ	4回	デザートプレート
厨房手作りおやつ	12回	パン、よもぎ饅頭
敬老の日	12回	お祝い膳
すき焼き	12回	

(4) 身体拘束等の適正化の推進

ア 身体拘束・虐待防止委員会

開催日	内容
第一回 5月30日(木)	開催日程について、年2回の研修内容 施設内の身体拘束について
第二回 8月28日(水)	研修内容の具体案。 施設内の身体拘束について
第三回 11月20日(水)	第一回研修結果、第二回研修内容 施設内の身体拘束について
第四回 2月28日(水)	第二回研修内容具体案 施設内の身体拘束について

イ 身体拘束に関する研修

開催時期	内容
第一回	お茶の水フォローアップ研修ネット配信利用 「身体拘束排除の知識」 確認テスト提出にて研修受講とする
第二回 令和二年3月 本館、別館リーダー会 各ユニット会議	スピーチロックに関する研修 各ユニット会議にてスピーチロックについてグループワークをする

(5) CS (customer satisfaction) 改善の推進:

年月日	内 容
平成 31 年 4 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・有給休暇促進により、誕生日休暇（アニバーサリー休暇）1日設定
平成 31 年 4 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・NO 残業日を月1回から、毎週水曜日週1回に設定 ・振り返りシートで自己分析し業務改善する ・意識調査（11月）
平成 31 年 4 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・産休・育児休業取得者支援活動 ・職場復帰支援面談 3回実施 ・産休前支援面談 3回実施 ・男性育児休業支援 1名取得
令和元年 7 月～	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇、身だしなみマニュアルアンケート実施（7月） ・身だしなみマニュアル検討、作成 ・接遇ハンドブック作成 ・サービス向上アンケート作成、報告（1月）
令和元年 8 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・家族交流を兼ね職員と家族のサマーパーティー実施（参加人数 59 名）
令和元年 8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・「くるみん」認定申請に向け女性活躍進法一般事業主行動計画策定（労働局届出） ・「両立支援ひろば」「女性の活躍推進企業」のデータベースに情報公開する
令和元年 10 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェック実施（131 名）
令和 2 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・WLB アンケート実施、問題点抽出

(6) 家族の会の活動について

年月日	行事名	内 容
令和元年 6 月 23 日	総 会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度の事業、会計報告 ・令和元年度の事業計画、予算案 ・夢実現について（事例発表）
令和元年 9 月 15 日	食事会	本館（参加者 14 名）
令和元年 9 月 16 日	食事会	別館（参加者 36 名）

3 認知症ケアの充実

(1) 認知症デイサービスの開設

垂井町内初めての認知症対応型通所介護施設「はつらついぶき」を開設し、認知症専門の在宅サービスとしての機能発揮に努めた。

(2) 実践的な学習療法実施体制の確立

全国のパイオニアとして導入し、「学習療法のいぶき苑」として定着している学習療法について、効果の見える化を進めるための検討を図り、これまで全入居者を対象としていた実践活動について、学習意欲、学習効果期待度の基準で優先対象者を絞り、効果の見える化を進めた。

また、県内で実施された、学習療法実践施設の発表会に参加した。

項目	内容
学習実践者数	34名
2019年度モデル施設の集い	・実践モデル施設委嘱 ・グループワーク「学習療法の活かし方」
東海ミニシンポジウム	・ポスター発表 ・事例発表
岐阜オープンシンポジウム	・施設動画紹介

(3) 認知症ケア体制の強化

認知症介護実践資格者を養成し、認知症ケアの専門性向上を図った。

研修名	令和元年度 受講者数(人)	受講者数 累積(人)
認知症介護実践者研修修了者	4	38
認知症介護実践者リーダー研修修了者	3	16

4 ご利用者の要望に沿った看取り介護の充実

① 看取り指針の整備

ご家族向けに看取り期の対応を示した冊子を作成した。

② エンゼルケア実施体制の整備

深夜においてエンゼルケアに対応する看護職員及び介護職員に対し、時間帯に配慮し手当を創設した。

・ 看取り介護の状況

事業所	R元年度		H30年度	
	件数	加算額(円)	件数	加算額(円)
本館	15	806,000	10	492,960
別館	11	660,400	8	372,880
ほのほのいぶき	7	301,920	6	229,620
合計	33	1,768,320	24	1,095,460

5 安心安全な施設づくり

(1) 事故対策・事故予防体制の整備

① 体制の整備

介護事故に対する迅速な分析と再発防止を周知徹底するため、事務局にリスク管理部を設け、リスクマネジメント研修履行者（リスクマネージャー）を2名配置し、介護事故等を検証・分析し、事故の減少化を図った。

- ・ 事故予防対策指針、マニュアルの策定
- ・ 2か月に1回、外部委員を含めたリスク対策委員会を開催
- ・ 事故予防の為の研修を2回／年実施

② 事故への対策

- ・ 県の改正指針に基づき、重大事故発生時への迅速な対応体制（24時間以内の行政報告）を整備した。
- ・ なお、令和元年度に発生した重大事故（1か月以上の入院事故）は、4件であった。

区分	内容	令和元年度	平成30年度	平成29年度
行政報告事項 (一か月以上の入院)	骨折	4	3	6

行政報告事項 (通院)	皮膚剥離等	7 (骨折 3)	7 (骨折 5)	8 (骨折 7)
その他 不適合案件	転倒及び転落	97	199	149
	服薬管理	11	28	35

(2) 災害対策の徹底

BCPを活用した防災計画に沿って防災訓練を3回／年以上実施した。各回とも、職員以外の協力を得て緊張感が増し、訓練効果が向上した。

なお、当施設を開催場所に2月に計画されていた福祉避難所設置訓練は、新型コロナウイルス感染防止のため開催が延期された。

実施日	場所	概要
令和元年7月16日	いぶき苑 本館・別館	<ul style="list-style-type: none"> 水害時避難誘導訓練 本館、ほのぼの利用者役を別館へ垂直に避難誘導
令和元年10月3日	いぶき苑 別館	<ul style="list-style-type: none"> ■第1部 <ul style="list-style-type: none"> 早朝5時の火災を想定した非常通報・初期消火及び避難訓練 ■第2部 <ul style="list-style-type: none"> BCP(事業継続計画)に基づき、深夜1時に地震が発生し、30分後の初動対応訓練 「被害状況確認」 「応急処置」 「炊き出し訓練」
令和2年2月21日	いぶき苑 本館	<ul style="list-style-type: none"> 火災を想定した「非常通報・初期消火」及び「避難訓練」 不破消防組合東消防署の指導に基づき消火訓練を実施

(3) 感染症への対策

① インフルエンザへの対応

全入居者及び全職員を対象にインフルエンザの予防接種を実施し、空間除菌剤(マルククリーンピュア、クレベリン、SGエアク

リーン)による感染防止対策をあらかじめ実施した。

ア 予防対策

事業所等		インフルエンザ 予防接種	発生時 予防投与	肺炎球菌 ワクチン	検 便
入 居 者	本 館	54	17	3	
	別 館	77	39	0	
	ほのぼのいぶき	16	17	0	
職 員		127	13	0	106

イ インフルエンザ罹患状況 (単位：人)

区 分		令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
入 居 者	本 館	2	3	0
	別 館	1	1	1
	ほのぼのいぶき	0	0	0
職 員		11	10	6

② 新型コロナウイルスへの対応

年月日	状 況	対 応
元2.24	国通知「介護施設への感染防止の徹底」	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の面会中止、家族・業者との対応（玄関対応）、職員の健康チェック、マスク、手洗い徹底
元3.18	法人対策本部設置	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止行動指針制定し、職員、家族に通知（職員不要不急の外出自粛、入新規入居・通院の対応徹底、外部研修の中止、小学校休校に伴う職員への対応、施設内環境衛生の徹底等）
元3.23	理事会で対応状況報告	<ul style="list-style-type: none"> 対策本部設置及び行動指針通知の報告 衛生用品の確保、備蓄、管理状況

(4) ご利用者の要望や苦情をすみやかに解決する体制の整備

相談内容	件数	開催日等
苦情対応	5件	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年6月4日、10月16日 「施設内苦情解決委員会」開催 令和元年12月13日 「第三者苦情解決委員会」報告

6 在宅系サービスの充実

(1) ティサービスほかほかいぶきの活動

① 利用状況

区分	令和元年度	平成30年度
実利用者数（男性）	2人	10人
実利用者数（女性）	32人	38人
年間稼働率	90.6%	97.4%

② 機能の維持、改善

生活機能向上連携加算対象者	生活機能向上連携加算額合計
26人	52,000円
個別機能訓練加算Ⅱ対象者	個別機能訓練加算Ⅱ加算額合計
3人	5,600円

③ 運営推進会議の開催

- 開催日 令和元年9月10日（火）
令和2年3月 4日（水）書面会議

④ 家族会との連携

- 家族会の開催
開催日：令和元年12月1日（日）
参加者：13名（ご家族、ご利用者）

⑤ 施設の地域開放

提供場所	延べ利用回数	延べ利用団体数
ほかほかいぶき	12	1

(2) 認知症対応型デイサービス「はつらついぶき」の活動

① 利用状況

区 分	令和元年度
実利用者数（男性）	6人
実利用者数（女性）	17人
年間稼働率	85.3%

② 機能の維持、改善

個別機能訓練加算対象者	個別機能訓練加算加算額合計
23人	600,480円

③ 運営推進会議の運営

- ・開催日 令和元年9月10日（火）
令和2年3月4日（水）書面会議

④ 家族会との連携

- ・家族会の開催
 - ・令和元年11月23日（土）参加者33名（ご家族、ご利用者）
 - ・令和2年2月22日（土）参加者10名（ご家族のみ）

(3) 短期入所生活介護（ショートステイ）の運用

① ほのぼのショートの活用

特養ほのぼのいぶきの未使用室（1室）を活用しショートステイとして運用した。

利用者数	延べ利用日数	収入額
22人	158日	1,792,558円

② 特養の空床活用

特養の空床については、積極的に短期入所生活介護として活用を図った。

【本館】

利用者数	延べ利用日数	収入額
6人	69日	828,150円

Ⅲ 地域福祉の拠点となる施設の役割発揮

1 地域共生社会への取り組み

(1) 地域支援体制の確立

① 提案型共同事業の実施

垂井町が募集する「提案型共同事業（団体提案型）」に「脳の健康教室」及び「おもちゃ図書館」事業を応募し、プレゼンテーションの結果採択され、各10万円の補助を受け実施することとなった。

ア 脳の健康教室

レッツ垂井との協働により、健康体操教室を組み込み、脳と体の健康教室として開催した。

	令和元年度	H30年度	H29年度
開催期間	7月2日～ 12月10日	6月19日～12 月4日	6月20日～12 月12日
受講者数	10人 (男性7人・ 女性3人)	8人 (男性7人・ 女性1人)	9人 (男性6人・ 女性3人)
サポーター数	7人	7人	6人
交流会	鍋パーティー	鍋パーティー	絵合わせ 脳トレゲーム 鍋パーティー

イ おもちゃ図書館

地域のNPO団体ライフサポート垂井と協働し、クリスマス会を開催した。なお、2月に共同開催を予定したひな祭りは、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

開催日	参加者		おやつ	催し物
	子供・親	ボランティア		
4月28日	27	4	駄菓子販売	無し
5月26日	31	4	駄菓子販売	親子ふれあい遊び教室
6月30日	52	4	駄菓子販売	七夕飾りつけ
7月28日	37	4	駄菓子販売	歌と踊り
9月29日	27	4	駄菓子販売	走る紙コップ作り
10月27日	47	4	駄菓子販売	喫茶・施術 ハンドマッサージ
11月24日	35	4	駄菓子販売	喫茶・ハンドマッサージ 時計作り
12月14日	60	16	フライドポテト ケーキ カレーライス	ハンドベル演奏会 クリスマスツリー作成
1月26日	19	2	駄菓子販売	喫茶
2月	中止			
3月	中止			

(2) 災害要支援者への対応体制と福祉避難所機能の発揮体制の確立

① DWAT及びDCATへの協力

県の実施するDCAT研修の受講を通して災害時に要支援者対応ができる職員を増員した。

このうち、国のDWATに登録していた職員1名を、台風19号の被災地（埼玉県川越市）に被災者支援のため派遣した。

② 福祉避難所の協定締結

大災害発生時に要援護者を引き受け支援するため平成29年度に町から指定を受けた福祉避難所について、県の実施する開設訓練が予定されていたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

・ D C A T 研修の受講

研修内容	R1 年度	H30 年度	H29 年度
ビギナー研修	0	4	4
ミドル研修	0	0	4
ミドル研修実地訓練	4	0	3
アドバンス研修	0	0	3

2 地域の高齢者を支える仕組みづくりと推進

(1) 生きがいつくりに貢献する活動の場の提供

① ボランティア活動の場の提供

ア ボランティア活動回数

場所 活動内容	本館		別館(含ほのぼのいぶき)		デイサービス ぽかぽかいぶき		デイサービス はつらついぶき	
	延回数 (回)	延人数 (人)	延回数 (回)	延人数 (人)	延回数 (回)	延人数 (人)	延回数 (回)	延人数 (人)
レクリエーション	26	51	21	49	64	74	16	16
包布交換	6	30	9	39	—	—	—	—
行事介助	11	59	1	2	—	—	—	—
園芸福祉	1	5	0	0	5	20	—	—
演芸	2	37	3	22	5	10	—	—
園芸	10	77	17	47	—	—	1	2
写真提供	0	0	2	9	—	—	—	—
整髪	8	8	0	0	—	—	—	—
合計	64	267	51	154	74	104	17	18

○ 法人全体開催合計

項目	年度	令和元年度	H30 年度	H29 年度
活動回数		206回	223回	227回
活動延べ人数		543人	707人	754人

② 在宅高齢者の料理教室の開催

簡単で栄養バランスの取れた高齢者対象の料理教室を開催し、地域の独居等の高齢者が健康な生活を送れるよう支援した。

- ・開催日：令和元年7月21日（日）
 - ・会場：ぽかぽかいぶき
 - ・対象者：垂井町府中地区高齢者（ぽかぽかクラブ参加者）
 - ・テーマ：フレイル予防
 - ・内容：①国の動向紹介
 - ②フレイルに関する講話
 - ③フレイル評価
 - ④テーマに沿った食事の試食会

（2）認知症高齢者と介護者を支える仕組みづくり

① 認知症カフェの実施

H29年度に自主的に開催した認知症カフェについて、垂井町の要請に応じ、H30年度以降は町の委託事業として実施してきた。

開催日	活動内容	提供菓子	参加人数	
			R 元年 度	H30 年 度
4月26日	DAMを活用した健康体操	菓子盛り合わせ	28人	48人
5月29日	DAMを活用した健康体操 大学生との交流	はつらつ開所 記念せんべい	49人	57人
6月26日	DAMを活用した健康体操 七夕飾り作成	菓子盛り合わせ	46人	56人
7月31日	DAMを活用した健康体操 熱中症予防講話	枝豆・クッキー	49人	45人
8月27日	DAMを活用した健康体操 福祉用具体験講座	コーヒーゼリー	49人	29人
9月25日	DAMを活用した健康体操 アンサンブル演奏会	手作りおはぎ	49人	63人
10月30日	落語（大垣落語の会）	焼き芋・鬼饅頭	49人	26人
11月27日	合唱（カエルの合唱団）	菓子盛り合わせ	50人	42人
12月25日	感染症予防講座	クリスマスケーキ	50人	33人
1月29日	DVDによる回想法	白玉ぜんざい	49人	29人
2月日	新型コロナウイルス感染症防止のため中止			37人
3月日				49人
年間合計			468人	514人

3 地域の担い手づくり推進

(1) 福祉ボランティアの支援

- ・ ボランティアの集い

項目	内容
開催日	令和元年7月9日

参加人数	22人
研修内容	講師：特定非営利活動法人 ぎふ NPO センター ボランティアコーディネーター 籠橋 文子氏 演題及び活動：「私のプチ自慢で地域を明るく」

(2) 福祉教育への貢献

① 福祉教育への貢献

ア 出前講師派遣

実施日	方法	内 容	
R元.7.09	出張	講演	中部学院大学で地位貢献事業の説明
R元.7.23	来苑	見学説明	関市社会福祉協議会の委員に対し事業説明
R元.11.16	出張	講師	中学生への職業講話 2019
R元 2回	出張	講師	大垣特別高等支援学校での非常勤講師
R2. 2.4	来苑	見学説明	不破高校のバスツアーに対し事業説明

イ 介護体験学習等受入れ

年度等 区分	令和元年度		平成30年度	
	延べ人数	受入学校数	延べ人数	受入学校数
介護体験	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県社協 ・大垣養老高校 ・日本大学 ・北中学校 ・不破中学校 ・大垣特別支援学校 	13人	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県社協 ・不破高校 ・立命館大学 ・佛教大学 ・不破中学校
ワークキャン	4人	<ul style="list-style-type: none"> ・北中学校 	11人	<ul style="list-style-type: none"> ・北中学校

4 地域の中の法人としての活動

① 地域への施設の積極的な開放

場 所	項 目	R元年度	H30年度
別館地域交流 スペース	年間利用回数	86	62
	利用団体数	11	7
ぽかぽかいぶき	年間利用回数	12	11

② 施設が所在する自治組織との関係強化

垂井地区まちづくり協議会会長の斡旋で、力士2名の訪問を受け、ご入居者と交流した。

③ 施設行事等を介して地域における世代間交流の促進

「ボン・マルシェ」と盆踊りを同日に開催し、250名以上の地域の方々との交流を深めるとともに、いぶき苑の活動、事業を積極的にアピールした。

開催日	事業名	概要
H30年8月24日	ボン・マルシェ	「HAJIKETE MAZARE2019」 高齢者から子どもまで幅広い世代のつながりを生み出す「多世代交流」の実現を目指す ・大はしゃぎエリア ・模擬店エリア ・福祉魅力エリア ・多世代交流エリア ・思い出写真エリア ・チャレンジ市エリア ・リラクゼーションエリア
	盆踊り	「夏のひと時をご利用者とご家族及び地域住民の交流を図る地域に開けた施設を目指し、地域と繋がりを強くする。」 ・ポスターによる広報 ・初めて昼間に開催 ・ボランティアによる生演奏

④ 認知症講座の開催

他施設との協働で認知症に関わる介護従事者の啓蒙映画「ケアニン」の上映会を開催し、地域住民や職員に介護事業を啓発した。

日程	時間	場所	参加者
11月26日	16時～17時45分	花ホール	いぶき苑職員 地域の方々
11月27日	10時～11時45分	花ホール	いぶき苑職員 地域の方々

⑤ ひな人形見学会の開催

地域の方々が見学していただけるよう、家庭で不要となった雛壇を一堂に集め、季節感のある事業として見学会を開催した。

開催期間	飾り数	対応
令和2年2月10日 ～ 令和2年3月8日	6組	登録ボランティア10人による飾り付け・片づけを依頼

⑥ 地域ブランドづくりの報奨

地域貢献、広報活動など法人のブランド向上のため奨励制度を設け、貢献した職員を報奨した。

項目	件数・人数	合計額(円)
法人ブランド向上寄与	6人	30,000

⑦ 地域における行事への協力

地域で行われる親子クッキングの開催における講師として協力した。

・ 親子クッキングの講師

開催日	場所	調理内容	参加人数
R元8月3日	宮代公民館	サフランライス、カレー4種とナンラッシー	19人
R元年12月7日	宮代公民館	手作りピザ。キノコとツメの和風パスタ、ロールキャベツスープ、クリスマスゼリーケーキ	27人

IV 職員が生きがいと働きがいのある職場づくり

～ワークライフバランスの取組の推進～

1 人材の確保と育成

(1) 人材の確保

○ 令和元年度採用職員数（同年度退職者を除く）

職 種	正職員	パート	計
介護職員	4	9	13
介護職員（技能実習生）	0	2	2
介護アシスタント	0	4	4
看護職員	1	1	2
その他職種	2	8	10
計	7	24	31

(2) 人材確保に向けた環境整備

① 効果的な広報宣伝活動の実施

スマホ版ホームページを公開するとともに、求人情報専門検索サイト（indeed）への求人情報掲載を実施した結果、県外から地元に戻る人材の確保（福島県、千葉県）に繋がった。

- いぶき苑ホームページからの応募状況
応募者8名（うち雇用3名、その内大学新卒者1名採用）
- ハローワーク求人の応募状況
応募者14名（うち雇用8名）

主なリクルート広報活動

活動内容	備考
岐阜新聞「介護の日」	1件
折り込み広告 はつらついぶき開設	1件
福祉のわ	3件/年
垂井町・関ヶ原町 行政広告	1件/各
JR時刻表	1件
ホームページ・リクルート更新	都度

② 実習生受け入れ体制の整備

平成31年3月に整備した宿泊機能について、実習生受託校に周知し受入実習生の拡大を図った。

受け入れた実習生に対しては、介護実習指導者講習さらには社会福祉士実習指導者講習を受講した職員を活用し、介護福祉士や社会福祉士の実習者に寄り添った細やかな実習指導を行った。

なお、実習生のうち2名が令和2年度の新規採用者となった。

年度等 区分	令和元年度		平成30年度	
	延べ人数	受入学校数	延べ人数	受入学校数
介護実習	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・桜高校 ・中部学院短大 ・介護労働安定センター実務者研修 	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・桜高校 ・中部学院短大

③ インターンシップの受入

法人の人材確保活動のための広報活動の一方策と位置づけ、中、高、大学生のインターンシップ受入を積極的に行い、11名を受け入れた。

学 校 名	人 数 (人)
日本大学	1
大垣養老高校	5
不破中学校	2
北中学校	3

④ 学生アルバイト等の受入

人材確保、職員補充を目的として学生アルバイト2名を受入れた。

⑤ 広域的な人材確保を踏まえた居住環境の整備

外国人技能実習生の人材確保のため、アパートの借り上げ等、居住環境の整備を進めた。

⑥ 介護人材育成事業者認定制度グレード1の取得

介護職員の育成・定着を図る目的で順次取得してきた、認定制度について、県を代表する最高級ランクのグレード1を取得した。
(2016 G3取得、2017 G2取得)

⑦ 職員一丸となったリクルート作戦の促進

職員自らがリクルート要員としての意識を督励喚起し、人材確保を図った。

応募区分及び人数		採用 (うち早期退職)	不採用
正職員	3	3 (0)	0
非正職員	5	5 (1)	0
計	8	8 (1)	0

* 紹介した職員に支給した褒賞費 7件 240,000円

(3) 定着につながる職員の育成

① 若手リーダーの登用

別館ユニットケア体制の確立と若手職員のモチベーションを高めるため、新たに設けたユニット長の5ポストに、20代の職員を登用した。

なお、登用に当っては、リーダーとしての資質を発揮できるよう、外部講師による実践的なリーダー研修で養成した。

② 新規採用者向けプリセプター制度の活用

新規採用職員の育成環境を整え定着に繋げるため、新規採用職員を先輩職員が1対1で、業務指導及び精神面のケアを支援するプリセプター制度を活用し、令和元年度は、3組のプリセプターとプリセプティィーに対し、育成計画を作成した。

なお、職場全員が計画を共有することで、育成に関わる意識を持ち、新人教育を行った。

また、施設長等が茶話会形式で話を聞く研修を行い、様々な不安に対するフォローアップと、サポートを行い組織全体で新人職

員とプリセプターを支えた。

時期	内 容	人数
入職時	プリセプターとの顔合わせ（茶話会）	11名
3カ月	3カ月経過後アンケート	6名
6カ月	プリセプターフォローアップ研修（茶話会）	8名
	プリセプティフォローアップ研修（茶話会）	8名
12カ月	1年間振り返りフォローアップ研修	11名

③ 職員育成に繋げる人事考課体制の確立

人事考課ソフトと人事考課育成面接シートを活用し、効果結果のフィードバックを実施し、効果的な職員育成を進めた。

④ 外部研修の有効活用

専門性の高い外部研修への参加と外部講師による内部研修を実施し、リーダー候補者の養成を行った。

ア 外部（派遣）研修 （次期リーダー候補を研修に派遣）

実施月	研修名	参加者
11月	・キャリアマネジメントセミナー	3名
	・ほめ方、叱り方セミナー	2名
	・中堅職員ステップアップセミナー	2名
	・能力開発セミナー	2名
	・リーダーの役割と求められるスキル	3名

イ マンツーマン伴奏型リーダー育成研修（次期リーダー候補6名）

実施月	回数	参加者	主な研修
6月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞
7月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞
8月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞

9月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞
10月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞
11月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞
12月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞
1月	1	3人	介護職員スキルアップ研修（リーダー育成）＜NPO ひだまり創＞

⑤ 積極的な資格取得の奨励による専門家集団組織の構築

資格	R元年度取得者	累計
特定行為業務従事者認定者 ※	6	46
介護福祉士	3	74
介護支援専門員実務研修受講資格	3	—

※ 介護介護職員で、一定の研修を受け「たん吸引」等の業務が行えると認定されたもの

2 職員がモチベーションを保持し、不安なく生活ができる職場づくり

(1) 職員の処遇改善

① 特定処遇改善手当の支給

令和元年度の介護報酬改定において創設された「介護職員等特定処遇改善手当」により、経験・技能のある介護職員、その他の介護職員及び介護職員以外の職員を4：2：1の比率で配分する処遇の改善を行った。

② 夜間勤務への配慮

夜間勤務の労力に配慮するため、10時間勤務制の導入に合わせ、8時間勤務、16時間勤務の3勤務形態の夜勤手当の増額を図った。

③ 断続勤務手当の導入

勤務の合間に4時間以上の休憩時間取得を条件とする断続勤務に対し、断続勤務手当を制度化した。

④ 介護パート職員の早出・遅出時間割増賃金の創設

早出及び遅出の時間帯に勤務するパート職員の賃金について、勤務時間のうち日勤時間帯以外の時間に割増賃金を支給し、正職員の負担軽減を行った。

⑤ エンゼルケア手当の導入

看護職員及び介護職員による夜間時のエンゼルケア実施に対し、エンゼルケア手当の支給を制度化した。

⑥ 介護業務の役割分担制の推進

利用者に直接的に介護サービス行わない「介護アシスタント」や入浴専門のパート職員を積極的に配置し、正職員の負担軽減を図った。

採用職員数：介護アシスタント4名（現在5名）

入浴専門パート職員1名（現在5名）

(2) モチベーション保持につながる方策

① 人事考課へのICTの導入

ICTを活用した人事考課を実施し、その結果を評価者が職員との面接によりフィードバックを行い、職員が業務に意欲的に取り組める環境づくりを行った。

② 職員改善提案の奨励

職員からの改善提案を奨励し、職場の環境改善や業務の効率化などに取り組んだ。

項 目	件数	合計額（円）
改善提案	13件	16,500

③ いぶき苑ブランド形成の奨励

いぶき苑の特徴的な取組の地域での実施、セミナーの講師などによりいぶき苑事業の地域への紹介等を通して、いぶき苑ブランドの形成に貢献、寄与した職員、所属を表彰した。

項 目	件数	合計額（円）
法人ブランド向上寄与	6件	30,000

3 働きやすい職場環境の整備

(1) 新はつらつ職場づくり宣言の着実な実施

① 勤怠管理システム「育護NAVI」の導入

勤怠管理システム「育護NAVI」を導入し、労働時間の適正な把握に努め、時間外労働の削減に努めた。

② ストレスチェックの実施

全職員にストレスチェックを受検させ、その分析結果をもとに職場環境の改善に努めた。

③ 育児休業取得の奨励

育児休業の取得を奨励し、仕事と育児の両立支援を行った。また、男性職員にも育児休業の取得を促した。（1名が取得）

(2) ポケットブックの活用

職員のキャリアアップや仕事の進め方のほか、休暇制度や給与・福利厚生に至るまで、職員が働くうえで必要な知識を満載したポケットブックを作成し、誰でも何時でも閲覧できる体制をとった。

また、新人職員には製本したものを手渡し、新採研修で丁寧に説明を行った。

(3) 業務の省力化と身体的・精神的負担の軽減

① 介護支援ソフト活用による業務効率化

介護支援ソフトほのぼのNEXT、ケアパレットの最大限の活用（体温測定、血圧測定のICT化）により、入居者の負担軽減及び職員の業務の効率化を図った。

② 勤怠システム活用による労働時間の改善

業務勤怠管理システム「育護NAVI」を導入し、労働時間の適正な把握に努め、時間外労働の削減に努めた。（再掲）

③ 福祉用具の活用

ご利用者の介助等にあたる職員の身体的精神的負担軽減のため、車椅子の更新及び移乗介助用機材の導入を進めた。

機器・用具名	数量	金額
車いす(跳ね上げ式へ更新)	12台	366,600円
スライディングシート	30枚	69,300円

④ カイロプラクティックの活用

カイロプラクティック施術を苑内で実施（毎週1回程度）し、職員の身体疲労の軽減に活用した。

補助年月	補助人数	補助年月	補助人数
平成31年 4月	0	令和元年 10月	6
令和元年 5月	14	11月	4
6月	11	12月	6
7月	7	令和2年 1月	6
8月	0	2月	0
9月	4	3月	0
		合計	58

補助額 28,750円

(4) 働きやすい環境整備

① 人事考課結果による職員へのフィードバックの実施

人事考課のフィードバックを含め重層的に職員と個人面談を実施し、職員の意向、要望、悩みを聞き取り、働き方の改善に繋がれた。

② 新たに設置した会議室の活用

平成30年度の本館改修に合わせて整備した本館第2会議室及び談ルーム（機械室西側）において、経営会議、職員面接や介護実習生の指導等に活用した。

4 職員が自らのライフスタイルを保てる職場環境、つながりづくり

(1) 休暇制度の充実

① 有給休暇の計画的消化の推進

改正労働基準法に基づく年次有給休暇の5日以上取得者（年休10日以上）は、100%で、法人の義務は履行された。

・ 有給休暇の取得状況

取得率等 職員区分	対象人数(人)		平均取得率(%)		平均取得日数(日)	
	R1	H30	R1	H30	R1	H30
全職員	138	148	72.2	69.3	10.9	10.4
正職員	91	90	66.3	63.0	10.6	10.7
パート職員	48	58	85.8	83.7	11.5	9.9

② 長期(5日間)のリフレッシュ休暇制度の継続(年休消化促進策)

有給休暇の平均取得率が、前年比2.9%増加したものの、リフレッシュ休暇(5日間)の取得率が前年度を下回っており、計画的な取得に向けた取り組みが必要である。

また、令和元年度から始まったアニバーサリー休暇の取得率は、82.4%にとどまっており、完全取得に向け取り組む必要がある。

ア 長期(5日間)のリフレッシュ休暇制度の取得状況

年度	取得率	全体取得率	うち介護職員の取得率
平成30年度		94.4% (85名/90名中)	100% (60名/60名中)
令和元年度		75.8% (69名/91名中)	86.2% (50名/58名中)

※正職員のみ

イ アンバーサリー休暇制度の取得状況

年度	取得率	全体取得率	うち介護職員の取得率
令和元年度		82.4% (75名/91名中)	81.0% (47名/58名中)

※正職員のみ

(2) 仕事と育児・介護が両立できる支援

① 育児休業取得者への支援

育児休業中の職員に対し、令和2年度の職場復帰に向けた事前面接を行い、円滑な職場復帰を行った。(新型コロナウイルスの感染拡大による保育園の休業により、5月復帰が延びている。)

② 男性職員が育児休業を取得しやすい環境の整備

令和元年度には、男性職員1名が育児休業を取得し、広報紙「いぶき」等での広報に協力してもらい、岐阜県ワークバランス推進エクセレント企業としての取組をアピールした。

③ 家族の職場参観機会の設定

8月に開催した夏祭りの機会に、職員とご家族の合同親睦パーティーを実施し、ご家族への職場理解を進めた。